

令和6年度 第3回白山市ミライ会議 【概要】

日 時 令和6年6月4日(火)10:30~11:30

場 所 市民交流センター 3階企画展示室

テーマ 【子育て】 障害のある子どもへの支援

出席者 7人〔障害児福祉サービス事業所〕



◆現状の支援には子どもの権利擁護が抜けている 子どもも1人の人間として尊重を

(出席者①)

白山市だけではありませんが、現状の子育て支援に決定的に抜けているのは、子どもの権利擁護だと思います。今、小さな子どもに対して行われている「治療教育」は、もっと生きる力を伸ばしていかなくてはいけない、根本的にそのままではダメというものであり、無条件の自己肯定が欠けています。その中で子どもが生きていくには、非常に厳しい社会だと感じます。まず、子どもを一人の意思を持つ主体的な人間として尊重することが大事ではないでしょうか。子どもの権利が保障されていないければ、障害児を対象とした話をしても意味がありません。白山市の中で、子どもの権利擁護、子どもの権利を代弁する機能があればいいと思います。

(市長)

白山市では、子どもの権利に関する条例を制定しています。障害の有無に関わらず、子どもの権利はしっかりと守っていかなくてはなりません。

◆放課後等デイサービスはキャパオーバー 重度障害児の受け入れ困難に

(出席者①)

今、放課後等デイサービスを利用する子どもがとても多く、利用しなくてもいいような子どもも、たくさん来ます。病院で発達に遅れがあると診断された親御さんの不安や心配は理解できますが、そうなるとう本当に支援が必要な子が受け入れづらくなってしまいます。社会全体で、不登校や障害児を受け入れる社会になってほしいです。現在、利用ニーズに対しキャパオーバーになっています。

(出席者②)

現在、白山市のどの学童クラブも、100人の子どもをスタッフ3人でみなければならない状況だと伺っています。そのため、皆と同じことができない子どもが、サポートが手厚いという理

由で放課後等デイサービスに来ています。そうすると、放課後等デイサービスは定員が決まっているので、重度の障害を持つ子どもたちが受け入れにくくなります。大勢の子どもで過ごすスタイルではない少人数の学童クラブがあれば、事業所も本来対象である障害のある子どもたちも受け入れやすくなると思います。

(出席者①)

同じ地域に住んでいる、同じ保育園の友だちと、同じ学校に行きたいと思っても、子どもの意見が通ることは難しい。放課後等デイサービスに来るのは、子どもたちの意思よりも、親の要望で通っているケースが多いと思います。

(市長)

子どもの数が急増している地域は、学童クラブを作っても、追いついていない状態です。

◆就学を前に悩む親へ手厚いサポートを 発達相談センターとの連携強化が必要

(出席者③)

当事業所も同じ状況で、支援学級だけではなく、通常学級に入っている子どもも多数来るようになりました。学童に断られたりして、仕方なく放課後等デイサービスに来るという人もいます。自分より支援が必要な子どもたちと一緒に過ごすことで、思いやりが育まれる面はあります。しかし、子どもたちの思いを聞くと、皆と一緒に遊びたいという声も聴きます。私たちのところでは、地域交流事業として、地域の児童館に行ったり、地域の子どもたちに来てもらったりもしています。

親が自分の子の発達の遅れを受け入れることは難しいと思います。子どもへの支援も大事ですが、私たちの仕事の8～9割は親のサポートです。白山市では、発達相談センターや子ども総合相談室があって、サポートを提供しているとは思いますが。しかし、就学を前に、親は悩み立ち止まります。就学時の手厚いサポートや、学童と放課後等デイサービスとの交流、少人数で子どもたちを見てもらえる場所があれば、発達に課題のある子どもを地域で受け入れる枠が生まれると思います。

(市長)

発達相談センターや子ども総合相談室の活動をもっと充実させるということですが、お母さんはまだまだ不安があるのでしょうか。

(出席者③)

障害のある子どもと同じ場所に通わせることに対する親の不安は、就学時前に特に強いです。事業所も、相談や助言とかサポートしますが、発達相談センターと私たちをつなぐ部分が上手くいっていません。発達相談センターとの連携強化が必要だと思います。

(市長)

私も教育委員会にいて、就学の相談を受けた経験があるので、親の気持ちはよく分かります。

相当なストレスを抱えているので、相手の感情に寄り添った対応が必要で、事業所の皆さんも苦勞されていると思います。発達相談センターとの連携は、今、あまりしていないのですか？

(健康福祉部長)

発達相談センターも、様々なケースに関わるようにしています。

(出席者③)

子どもの個人情報を慎重に取り扱わなければならない事情も分かるのですが、放課後等デイサービスを利用する場合の連携や早期療育早期発見の必要性から、早い時点で情報共有ができたらいと思います。相談員が担う部分だとも思いますが、事業所の対応が追い付かず、手が回っていない子どもがいるというのが現状です。もう少し早期の児童発達段階で子どもとのつながりを持てれば、親のサポートも事業者が担うこともできると思います。

(市長)

受け入れの事業所が不足しているということですか。

(出席者③)

白山市は、圧倒的に不足しています。

(広報広聴課長)

実際に重い障害のある子が利用できないケースがあるのですか。

(出席者①)

当事業所では、なるべく重い障害で医療的ケアが必要な子どもは受け入れようと決めています。1年を通じてずっと要望がくるので、ある程度割り振りをしてもらえると助かります。職員が放課後等デイサービスを利用しなくてもいいように思う子もいます。もう少し困っている人がいるのではないかと思います。

◆夏休み前に行き場のない子どもが増加 定員を増やすと収支がマイナスになる矛盾

(出席者④)

私たちのところには軽度の子が多く、問い合わせも多いです。今年から定員を拡大しましたが、それでも対応が追いつきません。夏休み前には、学童に入れない子が出てきて、その受け皿がない状況です。なぜ自分の子が入れないのか不信感をもつ親もいて、キャパの問題もあり、うまく調整できたらいいと思います。行き場のない子どもが増えてきているのが現状です。

定員を増やすと、1人あたりの基本報酬が下がる反面、職員は配置しなくてはならず、収支がマイナスになります。それでも、子どもを受け入れなければならない状況です。そういった環境を改善してもらえれば、定員を増やすという選択肢も出てくると思います。

(出席者⑤)

施設が2階建てということもあり、医療的ケアが必要な子どもは受け入れられず、軽度の子どもが多い状況です。皆、ケアが必要だと判断されて、受給者証が発行されているのに、受け入れる施設が足りないという矛盾があります。

(出席者⑥)

私の事業所には、能美市の人もよく来るため、白山市の人が受け入れできないという状況です。事業所への働きかけは、白山市より能美市が早い。今年の1年生は、去年の夏から問い合わせがきていました。相談があった人から受け入れる形になると、白山市の相談員の動きが遅いように思います。

大変手がかかる子がいると聞いて、その子が通う学童を見学させてもらっても、自分たちの感覚では全然大変ではなく、私たちと学童との感覚の違いを感じます。学童と放課後等デイサービスとを併用している子もいれば、学童に置いておけないという親の判断でこちらを利用している場合もあります。

170人もが通う学童もあって、大変だとは思いますが、障害のある子どもを断っているという話を聞くと、それは違うと思います。

(出席者⑤)

夏休み前になると、学童に入れないので、放課後等デイサービスで預かってほしいという話が出てきます。去年も、一昨年もありました。

(出席者④)

どの放課後等デイサービスもいっぱいなので、その時点で言われても空きがない状態です。学童も、子ども100人を職員3人で見るのはとても大変で、やんちゃな子どもを預かることができないと言うのも理解できます。難しいとは思いますが、人員を増やしたり、施設を広げたりして、子どもにとって望ましい環境で過ごせたらいいと思います。

◆重症心身障害児を病院と連携しケア 受け入れ態勢を整えば受け入れは可能

(出席者⑦)

こちらは皆さん方と少し違い、重症心身障害児をメインとしています。現在、児童発達支援管理責任者がいないため、新規受け入れができず、問い合わせがあってもお断りするしかない状況です。医療的ケアに関しては、看護師を配置しているので、受け入れ態勢を整えば受け入れ可能です。医療的ケアが必要な子がいないか、注意して見守っているところです。

(市長)

病院とも連携をとっているんですか。

(出席者⑦)

病院と連絡をとり、主治医から指示書をもらい、どういう医療的ケアをしていくか、確認しな

がらやっています。

◆区画整理で子どもの数が急増 学童にあふれる子を放課後等デイサービスでも受け入れられないか

(市長)

区画整理事業が進んでいる地域では、急激に子どもの数が増え、学童クラブを増築しても追いついていません。学童も、少ない人数で、多くの子どもたちを見てもらっている状態です。

(出席者①)

当事業所では、2022年に新しい施設になって、20人定員を目指しましたが、一人当たりの単価が7割くらいになり、人員配置や送迎で車も必要になるなど、運営上難しく、現在は10人定員でやっています。

今、子どもが増えている地域があり、放課後等デイサービスでも苦しい立場であることはよく分かります。障害のない子も、放課後等デイサービスで受け入れることは制度として可能なのでしょうか。職員の中では、学童の子たちも受け入れられたらいいねという話をしています。

(健康福祉部長)

今すぐお答えはできませんが、おっしゃるとおり、支援が必要な子も障害のない子も一緒にということは、子どもの権利として大切だと思います。しかし、現時点では制度的に厳しいのではないかと思います。

◆学校に行けない子の受け入れを 市独自の制度で改善できないか

(出席者③)

不登校の子どもに関する問い合わせを受けることも多く、今年度の報酬改定で、不登校に特化した加算ができたこともあり、学校と連携しながら学校に行けない子どものサポートをしています。発達の課題を抱えながら、受給者証がない子どもたちの受け入れ先は、教育センターなどに限られていて、特に、山手は不足しています。今、週1回、1時間かけて親が連れてきている子もいます。そういった子の居場所や親の相談にのれる場所を、私たちが担えます。市独自の制度があれば、受け入れやすいと思います。国の報酬改定もあり、日中、(受給者証のない子を)受け入れることも、可能性としてできないことはないと思います。

ここ数年、学校と直接やりとりできるようになり、どこに相談に行けばいいかわからない親を、学校につなぐこともできます。親が仕事に行き、家に1人でいる子どもが多数いる現状を、連携することで改善できたらと思います。

(市長)

子ども家庭センターは、窓口となる子ども総合相談室を教育委員会に設置し、各部局と連携を図っているが、うまく皆さんに情報が伝わっていないようですね。学校と放課後等デイサービスとの連携は大切です。不登校に関しては、教育センターが松任の駅前にしかなく、美川や鶴来、山ろくから通う人もいます。

(出席者③)

保護者が連れていかないと子どもが通えないという声をよく聞きます。保護者は仕事があるため、通うためには仕事を休まなくてはならない。利便性に関する不満を何度か聞いています。いくつか拠点があれば、状況を改善できるかと思います。

(市長)

先ほどから、行き場がないとか、相談をどうしたらいいとか、他市の相談員の動きと白山市の相談員の動きも把握する必要がありますね。

(出席者④)

能美市の相談員は、もう来年度の1年生のことで相談に来ています。

(市長)

能美市も事業所が足りない状態で、白山市も足りないのに、他市からも来ると厳しい状況ですね。

◆地域の子どもが地域で過ごせるシステムを

(出席者②)

各地区のコミュニティセンターは高齢者が主に利用していますが、例えば退職した人が地域の子もたちと交流し、一時的に預かるシステムができないでしょうか。地域の子もたちも、地域に戻って過ごせるようになれば良いと思います。

(市長)

もっと子どもたちが、コミュニティセンターを利用できたらいいと思います。子ども食堂などをしているところもありますが、定期的にできていないかもしれません。そういったことができる人材が必要です。今年スタートしたばかりですが、コミュニティセンターの活用については、各地区に交付金を出して、地区ごとに工夫してもらっています。

◆障害児は放課後等デイサービスへ 社会の分断解決に向けて社会全体で取り組む必要

(出席者①)

放課後等デイサービスには様々な要望があり、施設が足りないという今の状況は、ある種の社会の分断だと思います。過去には障害者を入所施設に収容すればよいとされていた時代と同様、今後10年20年後には、障害児は放課後等デイサービスに行かされていたという時代になるんじゃないか。社会の分断を認めてしまっている現状を、社会で考えていかなければならないと思います。

(市長)

様々な意見を伺うことができ、大変有意義な時間になりました。すぐにできること、できない

こともありますが、子どもが生き生きと生きていくことに重点を置き考えていきたいと思っています。今後ご意見をいただければと思います。